第１回　波佐見町上下水道事業運営審議会

１　開催日時等

日時　令和８年７月31日（金）　13：30～

場所　波佐見町役場　１階第１会議室

２　出席者

委　員	井上会長、前田委員、執行委員、楠本委員、渡辺委員、兒玉委員、竹田委員
事務局	水道課長　伊藤 水道課課長補佐兼水道班上水道担当係長　川口 水道課課長補佐兼水道班下水道担当係長　福田 水道課課長補佐兼水道班下水道担当係長　松本 水道課課長補佐兼水道管理班上水道担当係長　中村 水道課水道管理班下水道担当係長　溝上
アドバイザー	日水コン　松林、伊藤、森松
	オリジナル設計　辻田、小林、小迫

３　配布資料

資料１：水道事業の概要について

資料２：下水道事業について

４　内容

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 町長挨拶
4. 委員の自己紹介
5. 業者紹介
6. 町職員の紹介
7. 会長、副会長の選出
8. 諮問
9. 議事

５　各委員からの意見

資料１「水道事業について」

日水コン　：資料１「水道事業について」説明。

委員：水道事業の内部留保金（補てん財源）は現在、どのくらいあるのか？また、その資金の運用は行っているのか？

日水コン：内部留保金（補てん財源）の計算方法が複数あるが、現在約５億円を保留している。

事務局：内部留保金（補てん財源）は債権を購入して利息をつけたり、定期預金の利息をつけたりしている。

委員：債権とは、国債などか？

事務局：電力債である。

資料２「下水道事業について」

オリジナル設計　：資料２「水道事業について」説明。

委員：波佐見町の 20m^3 使用時の下水道使用料が、長崎県内で下から４番目となっているが、一般会計から、毎年繰入がないともう少し上がるのか？

オリジナル設計：繰り入れがないとすると収支がマイナスになりますので、それを埋めようとする場合は 3,080 円より高い料金、使用量設定でないと収支が合わない形になります。

委員：一般会計（基準外）の繰入は、どこからきているのか？（財源は？）

事務局：一般会計からです。企業会計とはまた別の、役場の一般会計からです。

委員：役場の方からですね？

事務局：補てんをしてもらっている形です。

委員：佐世保市（の下水道使用料）がすごく安いですが、理由はわかりますか？

オリジナル設計：佐世保市は、20m^3 までが基本料金となっており、それ以上が従量料金

となっていて、基本料金の設定が安いからです。

委員：それをモデルにするというのは、難しい？

オリジナル設計：0m^{3}でも2,040円、使っていなくても2,040円となります。波佐見町の場合は、0m^{3}でも990円となり、その違いはあります。

委員：一般的な家庭だと1か月で、どのくらい使用するものなのですか？

事務局：20m^{3}くらいです。

オリジナル設計：一人暮らしの家庭だと、5m^{3}などの少ない家庭はあります。

事務局：3人、4人だったら、20m^{3}くらい。単身世帯であったなら、5m^{3}くらい。一般的な家庭だと20m^{3}くらいとなります。

委員：他の自治体では、一般会計からの基準外繰入金をとっているところが多い？

オリジナル設計：下水道事業で基準外の繰入がなく成り立っていることはほとんどない状況ですが、なるべく少なくしていかないと、税金から賄っていることになります。

委員：分かりづらいですよね。基準外とは、赤字補填だと思ってもらった方がいいです。

委員：それは税金ということになりますよね。税金を納めているのは誰ですか？

委員：この使用料に関しては、県内の平均は分かるが、県外や他の自治体の基準外の繰入は分かるのか？

オリジナル設計：決算統計を公表していますので、確認することはできます。金額は確認できますが、割合などは、自治体によって違います。地域規模によって違います。

委員：多分、一般的な家庭の話では、値上げの話より、値下げの方を求めるのですよね。

事務局：昨今の世界情勢で、どうしても経費が上がっていることにより、今回の改定は、上げる方でお話をさせてもらって（います）。

委員：どうにか努力してもらえないか、という話も、私たちはしないといけない。

委員：４回も審議会の開催がありますが、今、基本的な話をして、何回目から料金の改定の話をしようとしているのか？

オリジナル設計：下水道事業も、2回目で改定率がどれくらいということを説明させていただきまして、それについてまた議論していただきます。

事務局：次の内容で話を予定しようと思っていましたが、次回の開催が2回目になります

が、今回の審議会は、今年度４回を予定しています。２回目については、９月末になりますが、その内容としましては、今後の経営状況の予測、適正な料金の水準を考えております。３回目を 11 月下旬に予定しておりまして、上下水道料金の現状と料金改定案の審議となります。４回目は、１月に予定しておりまして、内容は上下水道料金表の素案の決定、提言書をまとめて頂く予定になっておりますので、２回目以降にもう少し詳しい内容をお伝えするようになっています。

委員：下水道だけではなく、水道も今後は、他の自治体との比較も出してもらえるのか？

事務局：県内、佐世保市など、テレビのニュースであったり、全体的に今、（料金を）上げる状況になっています。同じように、ここ１、２年の中で審議会を開催して、料金改定を進めることが、全国的な流れになっているところです。本当でしたら、もう少し早くしないといけなかったのですが、コロナなどの影響で、日本の経済活動が衰退しているところで、コロナが終わってから、全国的に料金改定になってきている状況にあります。

委員：前回の審議会は 2019 年にされている？

事務局：はい。前回は、経営戦略という水道事業の経営の方針や将来予測をしています。この時に、将来的には料金を改定しないといけないとの方針は出ている状況です。今回、実際に上げる話で、皆さんに集まっていただいている状況になっています。

委員：全く関係ないが、2018 年くらいに水道法が改正して、民営化の話で、宮城県とかが導入しているが、民営化したほうが、水道料金が高くなってしまうのか？

委員：いや、高くなるとは限らない。

委員：ただ、リスクがかなりあります。民間が行うということは、儲からなくなったら、どこかを切っていく。そうすると、端々に水を送れない可能性が出てくる。これは非常に問題。

委員：特に波佐見のように、割と土地が広いようなところだと、端の人たちには送らない形も出てくる可能性がある。

委員：民営化すると、その可能性は無いとは言えないです。

委員：前の時にも感じましたけど、上下水道事業とは、そんな夢のある事業ではないです

よね。これから人口は減少していきます。尚且つ、施設は老朽化していきます。お金がかかります。物価は上昇しています。日本の経済状態はどうかというと、特に地方においては、なかなか厳しいです。施設はいつできたかというと、日本がまだアゲアゲの時に、素晴らしい施設を作って、今や、１人当りの国民GDPは、世界で38位だけど、生活のインフラの水準はどうかというと、一番いいものを作っている訳だから、それが全部引っかかってくるわけですよね。だから、夢がないのだけれども、とは言ってもライフラインなので、１人当りなのか、事業者を含めて、どのくらいまで料金を上げられるのか。それで、民間の話が出たけど、諦められるところがあるのか、という話になるが、我々の仕事は、おそらく、これぐらいの水準までは仕方ない、ということを考えることじゃないですかね。

委員：下水道は、水道に比べて比較的新しい。平成10年（事業開始）の時の財源は何？

オリジナル設計：国庫補助金が半分くらいありまして、このほかは、起債です。借金のことです。

委員:日々運用する分に関して、利益を出していくのは理解ができるが、建物であったり、設備が老朽化し、また建て替えたりすることに対して、負担がかかることの話をしているのか？それとはまた別か？

事務局：通常の管理に掛かるお金と、今後の改築に掛かるお金の両方です。特に、電気料金がここ10年くらいですごい上げ幅で上がっています。もちろん、下水道施設はポンプを使うので、基本的に電力となりますので、同じような状況になっています。耐用年数を過ぎてきた分は、更新ということで、新たに施設を壊して建て替えたりします。物価が上がってきているので、家の改築の話もしましたけど、今は2,000万円くらいでも家が建たないように、同じように公共工事についても金額が上がっている部分がありまして、今までの料金体系ではやっていけない状況にあります。

事務局：ほかにありませんでしょうか？

委員：町としては、また、役場としては、この水道料金は、長崎県内や全国の平均的なところのどのあたりを目標にしていくというのは、あるのか？

事務局：そうですね。経営戦略上あります。今後の話になってきますが、大体これくらい

上げないといけないとの数値的なものは出てきております。そうは言いつつも、人口が減ってきて、供給する水の量も減ってくる部分で、例えば、今までは大きな施設が必要だったが、ダウンサイジングをして経費を抑えるなどの努力もしていかないといけないし、その中で、遠隔監視などで、労力の軽減などを図っていって、総合的にやっていかないといけないと思っています。言われたように、料金、県内の状況を見据えながら、検討すべきと考えています。

委員：佐世保市が安いのなら佐世保市に住むか、という話ですね。だから、町として、日本の人口が減っているのは当たり前ですが、人口が減らないようにどうしていくのかが町づくりですよね。

委員：ソリューションは、ここにはない。要は、人口をどう増やすかとか、どう企業を誘致するのかという話なので。

委員：そこに、生活のライフラインとなるこの水道料金が、例えば県内の中で、波佐見町が、生活しやすいような形になれば、また考えは変わってきますよね。

委員：それは政策で、料金を安くして、移住者を増やそうが政策としたら、戦略としてはある。それで（移住者が）来るかという話ですね。

委員：この辺りが、どう含まれているか全然（わからない）。ただ、プランが（料金を）上げていかないといけないというのは、皆は理解している中で、たぶん（料金改定を支援している）業者さんの話ではなく、町としてどう考えるかが分からないと。

委員：これも戦略の一つですね。佐世保市は 2,040 円だけど、最低が高いわけですね。それが１人世帯に厳しいわけですよね。これも戦略ですよ。水道でやれることは、そういうことじゃないですかね。

委員：波佐見町のような町では、一人世帯は、単身で仕事に来る人よりも、割とファミリー層が多いと考えたときに、どういう料金体系にしていくかは、非常に重要だと思います。

委員：高齢者１人で、少ない使用量（のかた）は結構多いですよね。

委員：そうなると、また違いますね。

委員：県内の平均をよく出されるが、県内の平均を出されるときに、水道事業も下水道事業も、規模感や原水の状況、井戸を掘ってきれいな水が出てきて、何もしなく

ていいところは、安いに決まってますね。そういうところと同じような平均で競争されては、違うのかなと。同じような状況のところと比べないと。例えば、島原や東彼杵町は、100%地下水。川の水を使ってないから、係る経費が全然違う。

事務局：地域性がどうしても施設にはありまして、波佐見町は盆地になっています。真ん中が平らで端々が山でして、どうしても山に水を供給するために、ポンプで上げたりするところが出てきます。島原市や全国的に有名な熊本は、地下水が豊富で、地下水に消毒するだけで水を送れる。波佐見町の場合は、もともとの水をろ過して、きれいにして、消毒してなど、地域性もあります。地域によって掛かる経費も変わるという現実があります。

委員：今回、料金は値上げの方向で話が進むと思うが、その後、例えば、施設を新しくして、ダウンサイジングやシステムを変えることで、人件費などの支出などの諸々が減れば、料金を下げるようなことも考えていくことになるのか？

事務局：5年に1回、経営の見直しを行います。波佐見町の歴史においては、過去に一回、料金を下げたことがある。平成 23 年に料金を下げているが、今の状況では、将来下げる予測ができないのが現実。人口の問題、物価高騰の問題などから、下げる確約はできないが、好転すれば、収益率が増えれば考えられるが、現状は、ここ数年の中では、なかなか考えられない。もちろん、経営の努力はしていきますが、（値下げの）保証はできない。かなりリスクの方が高いのが現実だと思います。

事務局：それでは、下水道事業の概要の説明を終わります。

6　施設見学

1. 中央浄化センター
2. 湯無田浄水場

7　その他

第2回審議会は9月30日（水）13時30分からです。

8　閉会